

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたもぜひ活動にご参加ください。
(文中グラウンドワークをGWと表記することがあります。)

市民力・地域力を結集!

グラウンドワーク三島設立20周年記念シンポジウム開催

～地域協働によるグラウンドワーク三島の現場モデルで、地域・日本・世界を元気に～



市民力・地域力を結集!
グラウンドワーク三島設立20周年記念シンポジウム
～地域協働によるグラウンドワーク三島の現場モデルで、地域・日本・世界を元気に～

3月16日(土)～17日(日)、日本大学国際関係学部の新装なった三島駅北口校舎1Fにて、GW三島設立20周年記念シンポジウムが開催された。

初日の午前中は、GW三島実践地視察のバスが出た。午後の設立20周年記念セレモニーは、小松幸子理事長の挨拶のあと、3週間前に93歳で急逝された緒明實名誉会長のご冥福を祈っての黙とうで始まった。渡辺豊博専務理事が映像で緒明實名誉会長の足跡をたどり、GW三島の活動も紹介した。その後、来賓からご祝辞をいただき、祝電が披露された。

次にGW三島を支えてきた仲間たちに感謝状が手渡され、20年間の感想等を語ってもらった。最後にイギリスからのゲスト、ロビン・ヘンショウさん(英国GWオールダム&ロッヂデール元所長)と小山善彦さん(バーミンガム大学客員講師)、渡辺豊博GW三島専務理事(都留文科大学教授)による記念講演会があり、夕方からは7Fで大交流会(GWインターシップ&インキュベーション同窓会)を開催。



GW三島実践地視察の参加者は、松毛川で快晴の青空を背景にはっきり見える富士山の姿にも感激。これも三島側の松毛川護岸を人の力で整備した結果であると聞き、また感激。



映像を示しながら、故緒明實名誉会長のありし日の思い出を語る、ロビン・ヘンショウさんと小山善彦さん



▼GW三島の20年間を支えてくれた多くの仲間たちに感謝状が手渡されました。



▲ご来賓の豊岡武士三島市長、千賀裕太郎東京農工大大学院教授、ロビン・ヘンショウ英国GWオールダム&ロッヂデール元所長、小山善彦バーミンガム大学客員講師、諏訪部敏三島商工会議所会頭、山形武弘三島市観光協会会長の順にご祝辞をいただきました。また、細野豪志衆議院議員ほかからは祝電をいただき、ご披露しました。会場には、設立20周年を祝して多数のご関係のみなさまがお集まりくださいました。



▲駅から徒歩1分の日本大学国際関係学部三島駅北校舎で開催。



▲復興支援型地域社会雇用創造事業関係者も、東北から駆け付けてひとこと。



▲ムーン・リバー・ウォーカーズによるコンサートでは、阿久悠作詞の『富士山だ』が会場の人たちと熱唱されました。



▲夜景の眺めも見事な7Fでは、全国からの参加者による活発な大交流会が開催され、GW三島の今後や各地での活動に期待が集まりました。

2日目は「全体討論会」を 日本大学国際関係学部三島駅北校舎で開催



■テーマ1「地域資源をいかした被災地・地域での NPOビジネスの可能性」

話題提供者：■NPO法人フェアトレード東北 代表 布施 龍一氏 ■ふれ・愛キッチン（宮城県東松島市）石森 こと美氏（GW・インキュベーション起業支援対象者）
■NPO法人夢未来くんま 副理事長 大平 展子氏
■GW三島 三島街中カフェ 代表 勝亦 洋子

コメンテーター：●NPO法人パブリックリソースセンター 理事・事務局長 岸本 幸子氏
■テーマ2「地域における実践的環境教育のあり方」

■テーマ2「地域における実践的環境教育のあり方」

話題提供者：■富士常葉大学非常勤講師 加須屋 真氏
■環境カウンセラー 山口 康裕氏 ■源兵衛川を愛する会 事務局長 越沼 正氏 ■三島ゆうすい会 会長 塚田 冷子氏
■NPO法人GW三島 理事長 小松 幸子

コメンテーター：●富士常葉大学非常勤講師・富士山自然誌研究会代表 菅原久夫氏

■テーマ3「NPO・社会的企業による国・地域づくり」～国際的な事例に学ぶ～

話題提供者：■パーミンガム大学客員講師 小山 善彦氏
■英国GWオールダム&ロッヂデール 元所長 ロビン・ヘンショウ氏

■金沢大学地域連携推進センター 准教授 松下 重雄氏
コメンテーター：●一般社団法人日本GW協会専務理事・東京農工大学大学院教授 千賀 裕太郎氏

■テーマ4「地域課題解決のための多様なノウハウを学ぶ」～GW三島の潜在的パワーの源泉とネットワークとは～

話題提供者：■遊水匠の会 代表 小浜 修一郎氏
コメンテーター：●NPO法人GW三島専務理事・都留文科大学教授 渡辺 豊博（全体的コーディネーター）



去る二月二十八日に九十三歳で急逝された緒明實グラウンドワーク三島名誉会長のご逝去を悼み、これまでのご理解と温かなご支援に感謝申し上げます。心よりご冥福をお祈りします。

三島市民文化会館大ホールでの三月三日のお通夜及び三月四日のご葬儀は、当NPO法人関係者も多数お手伝いをさせていただきました。品格のある微笑みを見せていたご遺影は、いつまでも私たちを見守り続けてくださっているようでした。合掌

NPO法人グラウンドワーク三島一同



GW三島の今後の活動への提言(20周年記念)

★全国各地の起業家やNPOをつなぐ「GW起業家ネットワーク」の発足、東アジア地域でGW活動を広める「東アジアGWセンター」の新設など。★GW三島には、毎年2,000人近い視察者が国内外から訪れており、平成22年度から3年間にわたる（復興支援型）地域社会雇用創造事業のインターンシップ研修により、3,000人近くのNPOやGW関係者が、多様な地域協働の現場モデルを体験・視察。今後も、起業家への継続的な支援を進めていく。★三島での活動目標として、今後10年間で環境改善の実践地を100カ所にすることや専門学校と連携した教育活動の展開など。

ロビン・ヘンショウさん★滞在アルバム★

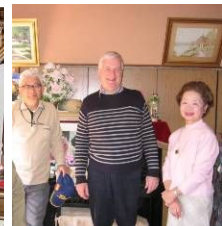


看板の右にはメキシコの美鳥・ケツァールもデザインされています。



沢地グローバルガーデンには、ロビン・ヘンショウご夫妻植樹のクレマチスがあります。今回、グラフィックデザインも学ぶ日本大学のメキシコ人留学生・ケニヤさんに依頼しておいた看板が完成し、皆で設置しました。グローバル文化交流協会会員と種蒔きし「雨の予報だから」と言っても、「種蒔き直後の、この水やりこそ大事」とせっせと水やりをするヘンショウさんでした。

ヘンショウさんは、斎藤昇・彩子さん宅と、水野敏雄・幾子さん宅で、2泊ずつのホームステイを体験。皆様ありがとうございました。



滞在中、函南町の丹那断層や天文台にも。塚田冷子GW三島元副理事長宅を訪れ、ホテルの幼虫を観察したり、水琴窟の繊細な水音に聞き入ったり。また、源兵衛川等へカワセミを見に。バードウォッチングする悠久の時間をともに味わいました。山梨県の忍野八海では、美しい富士山を満喫し、鱒料理にも挑戦。伊東市では海岸線を楽しみ、多くの交流を深め、最後の晩はGW三島関係者と・・・

英国視察旅行

3月24日～31日、渡辺豊博GW三島専務理事と地域社会雇用創造事業の関係者が英国を訪問。多くの先進的事例を見聞し、有意義な視察旅行となった。



ロンドンでは6団体の活動を視察。①ボランティアを中心にグリーンスペースの再生。②毎年9,000人のボランティアを動かし、パートナーシップで進めている河川や運河の改善や緑化。③宝くじ基金1億ポンドをもとに社会的起業家を支援。④環境活動をしている人たちの活動の登録、類似活動のネットワーク、フォーラムの設定。⑤ロンドンにおける歴史的建造物の保全。⑥グラウンドワーク・ロンドンの活動、グラウンドワークUKの今後の戦略について、トニー・ホークヘッド氏、グラハム・ダックスバリー氏と面談。

バースでは、粘土採掘跡地に造成された「人間と植物」をテーマとするテーマパークを社会的企業として運営しているプロジェクトを視察。





「黙々精進」を旨として

学校法人 三島学園理事 かめやま ちづお 亀山 千鶴男さん
三島市緑町在住

昭和6(1931)年1月、田方郡西浦村木連(現沼津市木連)に生まれる。三島市立中郷小を卒業後、旧制沼津中学(現沼津東高)に入学。入学後間もない時、掃除当番として校長室に行くと、当時の芝順照校長先生が、「君が中郷小からきた亀山千鶴男君か」と声をかけてくれた。その時の感激は今でも忘れられないそうだ。先生が繰り返しおっしゃった「黙々精進」という言葉は、その後の人生訓になったという。上級生の中川和郎さんの感化を受け、映画部に所属した。高校2年の時、映画監督五所平之助さんが大仁で病氣療養中であるとの噂を聞き、単身見舞いに行ったところ、快く会って話をしてくれたという。持参した本の見返しに、「ひろびろと伊豆の国見え曼珠沙華」という句までも書いてくれた。忘れられない思い出で、以後すっかり五所ファンになったと語る。

その後、五所監督とは昭和41(1966)年、映画「母ちゃんと11人の子ども」の撮影の時再会。さらに、昭和52(1977)年「わが街三島—1977年の証言」の制作時には、今度は一人息子の千広さんが五所監督の信奉者になり、柿田川撮影の時は何回も水につかったという。当時(早稲田大学の学生の頃)映画監督を志望していた千広さんは五所監督のアドバイスもあり、結局フジテレビに入社。主にドラマや映画制作の分野で活躍してきた。本年5月、制作畑からは異例の抜擢により、社長に内定した。

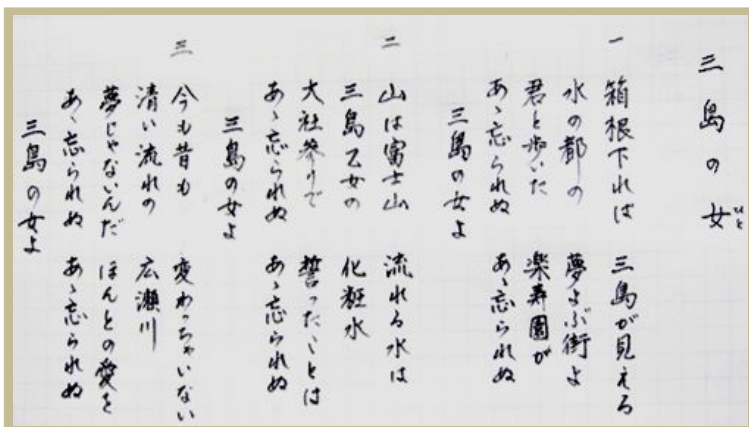


故緒明實氏と宴席で

沼津東高校卒業後、昭和25(1950)年地方公務員試験に合格、田方教育事務所教育行政職としての一步を歩み始める。その後静岡県教育委員会総務課、8年間の県教育長秘書等を経て昭和48(1973)年、当時三島にあった教育研修所に指導普及部長として配属される。41歳の若さで部長となり、部下が全員教員だったこともあってか、当初は「役人に教育のことが分かるのか」と言わんばかりのあからさまな反発もあったという。しかし、ひろまず彼らの中に飛び込んでいき、真剣に議論し、思いをぶついたりしていくうちに次第に理解が深まっていったと語る。

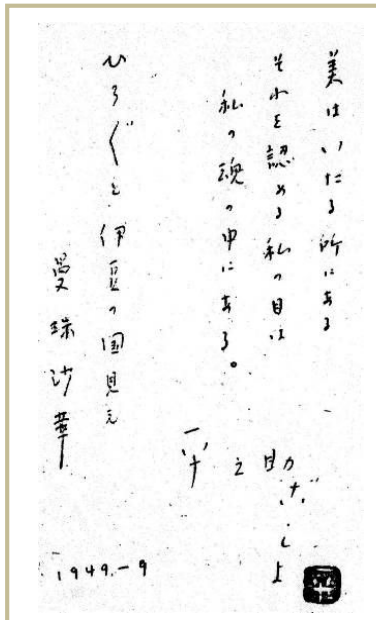
まず自らの心の内を開くことが相手の心を開くうえで大切だということか。一枚岩にまとまらないと組織は動かないということも強調された。また、宿泊研修に参加される先生方の心をほぐすのに開講式の夕べの集いでは、「三島の女(ひと)」という歌を自ら披露し、歌唱指導を実践。このユニークなアイデアは先生方には大変好評であったようである。三島の広報宣伝にも一役買ったようで、当時三島の夜の街は、研修所の先生たちで大いににぎわったそうだ。現在教育研修所は掛川に移転し、往時のにぎわいが消えたのは残念と語る。

昭和54(1979)年、沼津高等職業訓練校校長、56(1981)年、中央図書館次長、58(1983)年、沼津東高校事務長、60(1985)年、教育委員会文化課課長を歴任。63(1988)年3月、57歳で定年退職を迎える。退職後は県埋蔵文化財調査研究所常務理事として3年務めた後、請われて平成3(1991)年三島学園常務理事に迎えられる。以後16年間、当時の理事長緒明實氏の右腕として、新校舎建設など、学校の再建、発展に大いに貢献した。GW三島理事長でもあった故緒明氏については、「なんでも任せ、受け入れてくれる度量の広い人であり、大変誠実なお人柄であった」と語る。



平成17(2005)年からは緒明氏の要請を受けて、佐野美術館評議員に就任、現在同館理事として活躍中である。

「生きることは一筋がよし寒椿」。五所監督から贈られた本の見返しに書かれている句であるという。誠実な受け答え、端然とした佇まいからは、この句のごとき生き方が窺えた。正に「黙々精進」の賜物か。表舞台に立つのは苦手なようだが、昭和一けた代の男気も随所に感じられ、80歳を越したとはとても思われぬ若々しさには感服した。



←千広さん 五所監督と亀山夫妻



高齢化社会を生きる

【寄稿】 ^{えんどう たかし} 遠藤 隆

司法書士を開業して早 36 年になります。近年は「任意後見契約」「見守り契約」「死後事務委任」や「遺言執行」などの業務が増えてきて、高齢社会の到来を感じさせます。この「任意後見契約」は身寄りのないお年寄りなどが痴呆などになった時に後見を受けられるように、事前に交わしておく契約で、「見守り契約」というのは、定期的な安否確認などの見守りを行う契約、「死後事務委任」は、葬儀・埋葬や遺品整理、財産処分に関する契約です。そして遺言書に「遺言執行者」として指定してもらい遺言内容を実行するなどの仕事をしています。

GW三島の皆さんも市民後見人としての活動に参加して、地域のお年寄りは地域住民が見守っていくような社会を作って行ければ良いと感じています。GW三島とは 20 年以内の付き合いですが、最近では役員会に顔を出す程度で、スコップにもビールにもご無沙汰です。

9 年前にログハウス欲しさに三島から長泉の山奥に転居しましたが、再塗装やログのメンテ、薪ストーブ用の薪割り、植栽の寒肥え、クレマチスの誘引や草むしり、愛犬 3 頭のお世話と作業は山積みなのに週 1 回程度の休日では遅々として進みません。

やるべきことは増える一方なのに、今年 60 歳で高齢者の仲間入りする私にとって能力は低下する一方です。「神は熱い要求だけ与え、才能を与えて下さらなかった」と言った人がいます。今そんな心境で、残業が続き帰宅が遅くなると、やる気も萎えてしまいがちで困ったものです。無心に仕事をこなし、情熱や継続には刺激が必要ですので、本や人に相談するなどして刺激を受け続けていきたいと思う今日この頃です。

グラウンドワーク活動は 気力!体力!持続力!

【寄稿】 ^{やまざき たきこ} 山崎 多紀子



出身は熱海市。子どもの頃は、伊豆山神社の「子恋の森」、走り湯のある浜が遊び場でした。

学生時代は大阪で過ごし、「伊豆ではしっかり者」と思っていた私でしたが、やることなすことが、皆よりワントempo遅れ、地域性の違いを認めざるを得ませんでした。卒業後は、中伊豆、函南でリハビリ関係の仕事に従事し、常勤退職後の 10 年前から GW三島の編集に関わっています。

きっかけは、グローバル文化交流協会のスペイン語講座でした。でも、1 年間スペイン語を習って参加した初心者向け講座は、1 回目から落ちこぼれ 1 カ月で挫折してしまいました。この時、講座に誘ってくれた友人が小松幸子編集長と旧知の間柄であり、軽い気持ちで GW三島の編集作業に参加したところ、編集長をはじめ、編集室全員が想像以上に向上心旺盛な人たちでした。

当時の私は、グラウンドワーク活動は聞いたことはあっても、具体的な内容については全く知りませんでした。でも、アウトドア活動も出会った方たちも魅力的で、編集会議は、新鮮で楽しいひとときでした。取材で参加した自然観察会で、講師から「この自然の景観から、昔の人たちは、どういう生活をしていましたか?」と、今まで考えたこともないような質問をされました。以来、自分自身が慣れ親しんだ風景と地域の独自性が思い浮かび、自然との共生や歴史的背景を考えるようになりました。時々出かける山歩きでは、川や麓の町にも関心を抱くようになり、楽しさが広がっています。山に行くとき「登山は気力!体力!集中力!」と肝に銘じて歩き始めていますが、最近はこの言葉は「グラウンドワーク活動は気力!体力!持続力!」に置き換えられると思っています。自然を愛しむ心を持った生活は、豊かな人生につながると確信しています。



パッション No. 16

宮さんの川を守る会

昭和 37 年 3 月 26 日、小濱ヶ池の水位が 0 cm となり完全枯渇してしまいました。小濱ヶ池が源流の源兵衛川は農業用水路としての存在が大きく、田植えのための水として、東レの冷却水を流し、その場を凌ぎましたが、「宮さんの川」の方は一滴もなく、からからでした。近所の人達で集まり「火事になったら困る」「だけど源兵衛川のようなドブ川になったら困るね」と何日も洋裁学校の教室で話し合いをしました。その結果「汚かったら毎日掃除をすればよい」と決まり、三島市にお願いし東レの水を毎時 200 トン、昭和 54 年 7 月 1 日から通水してもらいました。ボウフラは鯉が食べ、「ぬく」は毎日竹箒で川面を掃き、ゴミを拾いました。

昭和 55 年 7 月 1 日、「宮さんの川を守る会」を設立しました。三島市のボランティア団体のはしりと自負しております。清掃の後、夏は涼みながら、冬は落葉枯枝で芋を焼きながら情報交換の場所となりました。今も 1 年数回皆で清掃、花植えや、七草粥の手伝いをしています。川の清掃は出来る人が、出来る時間に毎日しています。



宮さんの川を守る会 会長 塚田 冷子

GW三島「全国チーム」、ごくろうさま!



地域社会雇用創造事業、復興支援型地域社会雇用創造事業と、3年間にわたり活躍していただいたGW三島の「全国チーム」は、多くの成果をあげて、4月15日をもって任期を満了しました。

「世の中には星の数ほどの組織がありますが、こんなに大きなチャレンジをさせていただける組織はそれほど多くないと思います。毎日しびれるような経験の中で、たくさんの方を学ばせていただきました」「力を合わせて地域をよくしていこうという、GW三島の長年に及ぶ尊い運動の一翼を担うことができましたことを、誇りに思っています。いつも温かい目でご指導ご鞭撻をいただき、どうもありがとうございました」と語るのは、松田徳子さんたち全国チームのみなさんでした。

新旧のメンバーで交流会を開き、3年間の取り組みや、それぞれの今後の話をしました。(都合で参加できなかったメンバーは、またの機会に!)

GW三島の「動く編集室」



5月10日は、P3に登場の亀山千鶴男さんに「三島の女(ひと)」(作詞:真山幸二)の歌唱指導をしていただくために、編集室メンバーで会いました。この歌は、かつて亀山さんから手ほどきを受けた編集室の山田勝造さんがロザさんののを、加藤美穂さんが「以前勤めていた高齢者の施設で、90代の女性が毎日のように歌っていたので、私も知っています」と話したことから、編集室での関心が深まりました。亀山さんには丁寧に何度も歌唱指導をしていただき、一同は「三島の街にこの歌を復活させたい」という意気込みで、歌い続けました。

その後、GW三島事務局での編集会議は、「せせらぎ源兵衛」のメニューの話題で盛り上がり、打ち合わせに来たインストラクターや、GW三島事務局メンバーとも交流。今後も「動く編集室」を実施していきます。どこに出発するか、お楽しみに!



GW三島の活動記録 2013年3月1日-2013年5月31日

月	日	曜	事業名	内容	場所	数
3	11	月	子どもを元気に富士山プロジェクト	チャリティーコンサート ステラ・フィオーレ・アンサンブル	みしまプラザホテル	200
3	16	土	GW三島実践地視察	バスで市内の実践地巡り案内説明	三島市内	23
3	16	土	設立20周年記念シンポジウム	実践地視察、記念セミナー、記念講演、大交流会	日本大学国際関係学部 三島駅北口校舎	130
3	17	日	設立20周年記念シンポジウム	全体討論会、まとめ	日本大学国際関係学部 三島駅北口校舎	80
3	20	水	そばつくり隊	そば打ち教室	三島農村カフェ	15
3	24	日	源兵衛川生物多様性保全	源兵衛川第4ゾーン ワンデイチャレンジ	源兵衛川第4ゾーン	15
4	8	月	理事会	平成25年度 第1回理事会	三島街中カフェ	12
4	26	金	境川・清住緑地愛護会	境川・清住緑地愛護会 総会	西地区防災センター	15
5	1	水	三島街中カフェ3号店「せせらぎ源兵衛」	オープニングセレモニー 源兵衛棒、スムージー、地酒販売開始	源兵衛川広瀬橋前	30
5	14	火	日本航空高校静岡本部生徒の体験学習	ちゃんかけ拾い、三島梅花藻の里で作業	三島梅花藻の里	35
5	16	木	静岡県立清水特別支援学校生徒体験学習	源兵衛川ちゃんかけ拾い、生き物探し	源兵衛川 第3・第7ゾーン	59

予告 GW三島平成25年度通常総会

日時: 6月29日(土) 15:00~
※総会終了後に、交流会の予定
会場: Via701 1階ホール
(三島市本町1-40 大通り商店街通り沿い 三島広小路駅近く)
内容: 平成24年度事業報告、会計報告
平成25年度事業予定、予算報告
そのほか

視察来訪者記録 H25.3.1 ~ H25.5.31

月	日	団体名	人数	地域
3	1	神奈川県土地改良事業団体 連合会県央支部(厚木)	29	神奈川
3	16	GW三島20周年実践地視察申込者	23	全国
5	3	東京農工大農工野菜塾	2	東京
5	12	鈴鹿市玉垣土地改良区役員会	13	三重
5	14	内閣府関係者等	5	東京
5	14	日本航空高校静岡本部生徒	35	静岡
5	16	静岡県立清水特別支援学校	59	静岡

GW三島の諸活動のアルバムより



▲ヘンショウ氏恒例の看板磨き ▲佐野美術館の式典に出席 ▲本町タワーでの編集会議風景



GW三島事務局の新スタッフ



ふちがみ さとし
淵上 聖思

〈定例作業〉

三島梅花藻の里・・・16回
鏡池ミニ公園・・・3回
桜川・・・3回
宮さんの川・・・毎日
源兵衛川・・・16回
沢地グローバルガーデン・・・3回

〈定例会〉

インストラクター会議・・・3回
編集会議・・・8回

2人のイケメン店長(?)を囲んで、「せせらぎ源兵衛」が元気にオープン。5/1

視察と体験を2日間で!

東京農工大学の農工野菜塾に所属している学生2名が、2日間にわたってGW三島を訪れました。5月3日はGW三島の多様な現場を視察。4日には御園の麦畑の草取り作業体験。大学の畑でも野菜を育てている学生たちは、GW三島の営農法が勉強になると、感想を述べていました。また、三島の魅力も感じたようです。農工野菜塾の皆様、次回の来訪を、お待ちしております!お疲れさまでした。



過ぎゆく三島 いつまでも その13

連歌師 宗祇と古今伝授



^{いとおそうぎ}飯尾宗祇(応永28年～文亀2年 1421～1502)室町後期の連歌師。生国は紀伊とも近江ともいわれている。若くして禅門(相国寺)に入り、30歳のころより連歌を志し、学者であり武将でもあった岐阜の東常縁(とうのつねより)、宗砌(そうぜい)らに師事。東常縁からは後、古今伝授を授けられた。50代になり京都・上京に庵を結び、公家、上級武士、各地の大名と交わる。60代には北野連歌所宗匠となり連歌界の第一人者となった。宗祇は、連歌本来の伝統である技巧的な句風に『新古今和歌集』以来の中世の美意識を表現した。応仁の乱以後、古典復興の気運が高まり、京都文化への関心と連歌の全国的な流行が見られ、この時代は連歌の黄金期ともなった。

連歌とは五七五・七七の和歌形式から派生したもので、五七五の発句(第一句)に七七の脇句(第二句)を付け、更に上の句と下の句を交互に付け進めるものである。今日の俳句は連歌の発句が独立したもので、松尾芭蕉も宗祇を敬慕していた。

「古今伝授」とは『古今和歌集』の解釈を師から弟子へ秘伝という形で後世に伝えられたもの。他言は一切許されず、秘説が口伝により伝えられた。宗祇への伝授は、文明3(1471)年、正月28日から4月8日までと、6月12日から7月25日までの2度にわたり行われた。

当時、東常縁が伊豆の国府三島に陣を張っていたことを知り、宗祇は滞在先の裾野・定輪寺より常縁の元へ通ったといわれている。

この三島滞在中の3月27日、常縁の子息の病気平癒を願い **なべて世の 風を治めよ 神の春**(これは、戦乱の嵐が吹きすさぶ室町時代、三嶋大社の社前で神の力によりその嵐を治め、平和の春の到来を願う気持ちが込められた句)と、三嶋大社に奉納したところ子息の病が治った。そのお礼に3日間で千句を独吟し世にいう『三島千句』を奉納した。これには宗祇が奥書を付し、歌が記されている。

神はただ よしあしわかぬ 恵みあれば
人にぞしのぶ あさきこころを

「三嶋明神様、よしあしの別なくお恵みをいただけるならば、病気平癒の祈願のあさましき心にも、お恵みください」と詠み、「文明3年3月27日宗祇」と記されている。『三島千句』は現在、三嶋大社の宝物館に保存されている。

しかし、「古今伝授」を授けられた場所は長らく謎とされてきた。三島宗祇法師の会が論議を重ねた結果、願成寺は、応仁の乱が始まるころ東常縁が陣を構えたとされる川(河)原ヶ谷城域にあり、鎌倉古道沿いにあること、三島千句を奉納した三嶋大社の歴代宮司の菩提寺であること、願成寺旧書院から、宗祇法師350年遠忌に関する資料が発見されたことなどを理由として、願成寺を「古今伝授の寺」と認定した。平成25(2013)年3月27日、参道に碑を建立し除幕式が行われた。



三島市川原ヶ谷にある「古今伝授の寺」願成寺

宗祇は、江戸へ下り、次いで駿河へ向かう途中の箱根湯本で、文亀2(1502)年7月29日急逝。遺骸は富士を愛した宗祇の遺言どおり門人たちにより裾野市の定輪寺に葬られた。

連歌のほか、紀行文、連歌論、古典の注釈書も著した。生涯を通じ、たびたび各地を旅した宗祇は、西行、芭蕉とともに漂泊の人であった。

三島市内には、JR三島駅前をはじめ、「古今伝授のまち三島」という標柱がいくつか建てられている。

参考文献：三島市広報 歴史の小箱、 宗教法人 浄土宗 願成寺メールマガジン、 志村はじめの「小閑万感」ほか

源兵衛川環境再生ワンデイチャレンジ

3月24日、高校生、流域住民、GW三島スタッフ等、約20人が参加し、源兵衛川中流部（第4ゾーン）のエコアップ（環境改善）をさらに進めた。



はじめに、菅原久夫講師（富士常葉大学非常勤講師）から、植生や植物の生態系について川辺を歩きながら学んだ。

その後、外来植物のヒメツルソバなどの除去（草刈り）と溶岩や砂を入れてワンド（淀み）づくり、在来植物のセキショウ、ミクリなどの移植を約2時間かけて行った。

今後も、ホトケドジョウをはじめ多様な生物の生息環境再生創出をすすめ、源兵衛川の生物多様性の保全に取り組んでいく予定。

源兵衛川環境探検隊出前講座

5月14日 航空高校生35人は、源兵衛川ほかを視察し、ちゃんかけ拾いや三島梅花藻の里での作業等を体験した。

JR三島駅南口に集合して出発

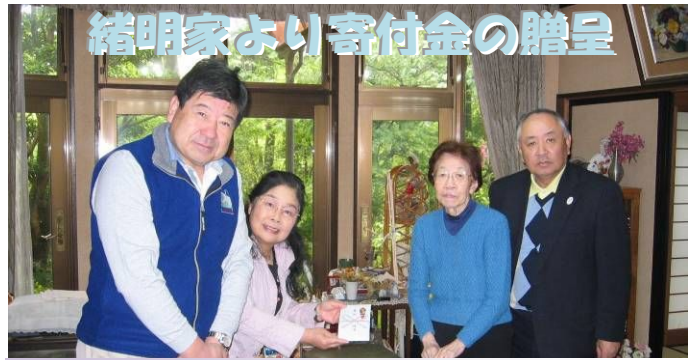


インストラクターの仲田芳文さんと田村和幸さんが、作業を指導



5月16日 静岡県立清水特別支援学校生ら59人は宿泊先の昭明館をスタートし、8名のインストラクターの指導のもと、源兵衛川第3ゾーン、三石神社沿いでちゃんかけ拾いをしてから、第7ゾーンで生物観察を体験した。

緒明家より寄付金の贈呈



4月21日の午後、新緑が美しい森の中の緒明邸に伺い、故緒明実名誉会長の奥様・緒明登美子様とご子息の緒明春雄様より、故人のご遺志とのことで、GW三島へ寄付金をいただいて参りました。

小松幸子理事長と渡辺豊博専務理事は心から御礼を申し上げるとともに、お2人と生前の緒明名誉会長の数々の思い出を語り、お元気があった頃を偲びました。また、今後も何かとご協力いただけるようで、GW三島の活動についてもGW三島設立20周年記念誌を開き、詳しく説明させていただきました。

再会を約束しての帰り際、玄関前の藤棚には淡い紫色の藤の花が満開で、ふと、緒明名誉会長の笑顔が浮かび、立ち去りがたい思いでした。 合掌



GWインキュベーション起業の事例

GW三島は内閣府の事業の一環として「グラウンドワーク・インキュベーション」を実施し、NPOや社会的企業を立ち上げる起業家の育成に取り組んできました。これまでに161名が起業しました。下記はその中のいくつかです。

- ①「株式会社ピリカ」東京都 小島 不二夫
- ②「合同会社SOZO」千葉県東金市 吉岡 隆幸
- ③「NPO法人伊久美 楽山舎」島田市 新井 真
- ④「一般社団法人十人十色の部屋づくり推進会」三島市 後藤 史恵 日本初の部屋の模様替え資格講座「ルームスタイリスト」を企画、運営。5月11日、「三島街中カフェ」でこの入門講座が開催され、エッセンスの詰まった講座に笑顔が絶えなかった。「静岡発の資格講座を全国に発信したい」と、後藤代表は意気込みを語った。
- ⑤「明日華」宮城県石巻市 赤坂 智子
- ⑥「伊達の屋台」宮城県石巻市 藤原 朋
- ⑦「株式会社結屋」三島市 川村 結里子



街に“にぎわい”を！ 「三島街中カフェ」「ZEROGO-ME」「せせらぎ源兵衛」

(1号店・野菜、惣菜、菓子等) (2号店・婦人服、韓国化粧品等) (3号店・軽食、飲み物等)

3号店オープンを前に、張り切るカフェのスタッフたちとアイデア出しのつどい



2階の喫茶や展示コーナーも人気で、各種講座が開催されることも！



▲2012. 6. 9 オープン(1F~2F) ▲2013. 2. 4 オープン



▲2013. 5. 1 オープン

親子連れが水遊びを楽しむ源兵衛川の広瀬橋のたもとに、「せせらぎ源兵衛」がオープンしました。ここでは、スティック状の軽食「源兵衛棒」（揚げ春巻き風4種）、美味しい果物の「スムージー」、そして地酒などをご用意しました。今年も5月上旬には、早くも源兵衛川でホテルが飛び始めました。散策の際には、ぜひお立ち寄りください。

三島市内の写真集

撮影者：みしま こまち
 撮影場所：桜川（白瀧観音堂近く）
 コメント：「あそこの浅瀬まで泳げたら、ひとやすみしましょ！」と、カルガモ母さん。「わ〜いっ！」バシャバシャ 10羽の子カルガモたち。5月5日子供の日、のどかな桜川で。



【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日に一言添え、Eメールに添付してGW三島事務局までお寄せください。Eメール：info@gwmishima.jp

ご寄付をありがとうございます！

「子どもを元気に！富士山プロジェクト」ほかGW三島の活動のために

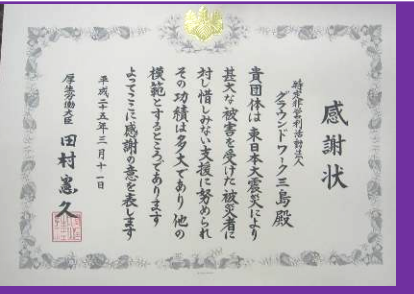
- * チャリティーコンサート in みしまプラザホテル
 - ・ステラ・フィオーレ・アンサンブル 177,000円
 - ・みしまプラザホテル 26,500円
 - ・四葉のクローバー 20,000円
 - ・遠藤いつ子ハートフルコンサート 148,000円
 - * 松毛三日月ふる里協議会 72,870円
 - * 箱根西麓ふる里再生協議会 30,560円
 - * 匿名希望 1,000,000円
- 合計 1,474,930円

東日本大震災における被災者の支援活動等に対する 厚生労働大臣（田村憲久）からの感謝状伝達式

4月26日、ツツジが咲き揃った静岡県庁本館4F特別会議室にて、大須賀淑郎静岡県副知事より厚生労働大臣感謝状の伝達式があり、小松幸子理事長が受け取りました。



これは、GW三島が東日本大震災における被災児童等の招待や、学習支援ボランティアの派遣を続けてきたことへの感謝状です。



3.11 東日本大震災復興支援 「思いをかたち」マンドリン&ギター チャリティーコンサート

3月11日、みしまプラザホテルにて「ステラ・フィオーレ・アンサンブル」チャリティーコンサートが行われました。滝廉太郎の「花」で始まり、アンコールの「また会う日まで」で全17曲、約1時間半の客席も一体となったコンサートでした。全館6会場で様々なコンサートが行われ、「ステラ・フィオーレ・アンサンブル」様よりチケットの収益金、「みしまプラザホテル」様よりコーヒーの売上金、「四葉のクローバー」様よりご寄付を当法人の「子どもを元気に富士山プロジェクト」にいただきました。

別会場の「遠藤いつ子ハートフルコンサート」様からは、石巻少年少女合唱隊へご寄付をいただきました。GW三島はこの合唱隊を、一昨年のクリスマスに「心を元気にするショートツアー」に招待し、御殿場と三島でクリスマスチャリティーコンサートを行いました。



フヨウサキナ： 東北の未来をつくる女性と子ども応援プロジェクト

3月7日、みしまプラザホテルにて、「フヨウサキナ：東北の未来をつくる女性と子ども応援プロジェクト」助成金の贈呈式が行われました。公益財団法人パブリックリソース財団より助成金制度の概要が説明され、株式会社フヨウサキナ社長から4団体に助成金が贈呈されました。

助成団体の1つにGW三島も選ばれ、渡辺豊博専務理事が贈呈式に出席しました。GW三島は「被災地の子どもと女性を元気に富士山プロジェクト」で石巻市などつながりができています。今回は、児童・親子等を対象にする「心を元気にするショートツアー」や「大学生出前寺子屋教室」、女性による被災地の復興と自立を支援する「女性の起業支援講座」を開講していることなどが評価されました。

他の3団体は、認定NPO法人IVY（アイビー）（国際ボランティアセンター山形）、特定非営利活動法人NPOカタリバ、一般社団法人ふらっとーほく。いずれも、東北の女性と子どもを支援する貴重な取り組みをされている団体です。ともに、長く活動を続けたいものです。



株式会社安永商事様の 10店舗達成記念パーティーで祝辞

おめでとうございます！



4月26日、みしまプラザホテルで、株式会社安永商事様のファミリーマート10店舗達成記念パーティーが開催されました。来賓として、小松幸子理事長が招かれ、お祝の言葉とGW三島の活動への日頃のご支援に対してお礼を述べました。

また、GW三島からは、感謝状と設立20周年記念誌を贈呈させていただきました。誠実（桔梗の花言葉）をモットーに時代を先取りするエネルギッシュな安永正央（まさちか）代表取締役は、以前、渡辺豊博専務理事の話聞いて共感。地域貢献の観点から会社でGW三島の活動に参加し、今後も協力したいと考えているとのことでした。

GW三島設立20周年記念誌

「グラウンドワーク三島 パクシヨシ 図鑑」

1,000円でGW三島事務局にて販売中

A4サイズで204ページ。ずっしりと、GW三島の歴史が詰まっています。

「源兵衛川わくわく観察ブック」(ポケットサイズ)の改訂版ができました。



グラウンドワーク三島編集室

ボランタリーニュース 50号編集ほか

- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 加藤 美穂 | 岸野 和子 | 城所 徂帝 | 小松 幸子 |
| 斎藤 彩子 | 本田 博子 | 前田 充子 | 水野 幾子 |
| 村澤 圭 | 山崎 多紀子 | 山田 勝造 | (50音順) |

GW三島事務局担当：村上 茂之